

## 引きこもり傾向にある子どもへの支援を家庭環境の調整から 再登校・進路意識の醸成へ

### 【C男の不登校の背景にある環境調整をどのようにすればよいただろう】

- 中2のC男は、ほとんど登校できない状態にあった。学級担任が家庭訪問しても姿を見せないことが多く、学校は対応に苦慮していた。
- 町の子ども支援室の支援員（保育士）も家庭訪問を重ねていたが、母親は定職に就けず、日頃から不在がちで、情報収集すら難しい状態であった。
- SCは、学校の依頼でC男と1回、母親と2回のカウンセリングを実施した。その中で、複雑な家庭環境（経済状況、親族関係、母親の性格等）などが、C男の不登校の背景にあることを把握したが、個別相談では経済状況の改善や本人へのアプローチに限界を感じた。

### 【家庭環境の調整をする】

- SCは、本人と母親のカウンセリングにより、不登校の背景にある課題を次のようにとらえた。

- ・母親は定職に就きたいと考えているが、職に就けず精神的に不安定になっている。
- ・経済状況や生活環境、母親の養育力等の課題が、C男の不登校の要因になっており、福祉の側面から家庭を支援する必要がある。
- ・C男には、健康状態（肥満傾向）の改善による自信の回復が必要である。

- SCは、学校長にSSWの活用を提案した。
- SSW・SC・学校・町の子ども支援員がチームで支援にあたることになった。

### 【C男と家族を教育・福祉・保健の面から多角的に支援しよう】

〈支援の方針〉 地域の関係機関と連携をとりながら、C男の家庭に対する支援を継続する。  
進路指導や学習支援を通して、引きこもり傾向を解消し、自立に向けての支援をする。

〈支援策〉

- [町子ども支援員] 引きこもりがちなC男に、養護教諭とともに家庭に入ったのアドバイスを行う。
- [養護教諭] 保健室登校を促し、C男の肥満傾向の改善に対しアドバイスを定期的に行う。
- [SSW] 母親の就労や住宅修繕にかかわる相談を町の住宅課等と行う。
- [SC] C男と母親との継続したカウンセリングを行う。
- [担任] C男との進路相談、学習支援等を行う。

### 【SSWとの協働によって、C男の家庭環境の調整が進み、登校を再開し、進路を実現した】

- チーム支援により、住環境の改善や保健師・町子ども支援室による母親との関係づくりが進んだ。
- C男自身も健康相談をきっかけにして、8ヶ月ぶりに学校の門をくぐることができた。
- その後C男は、週2日程度の登校を続け、学習への意欲も高まり、高校への進学を果たした。

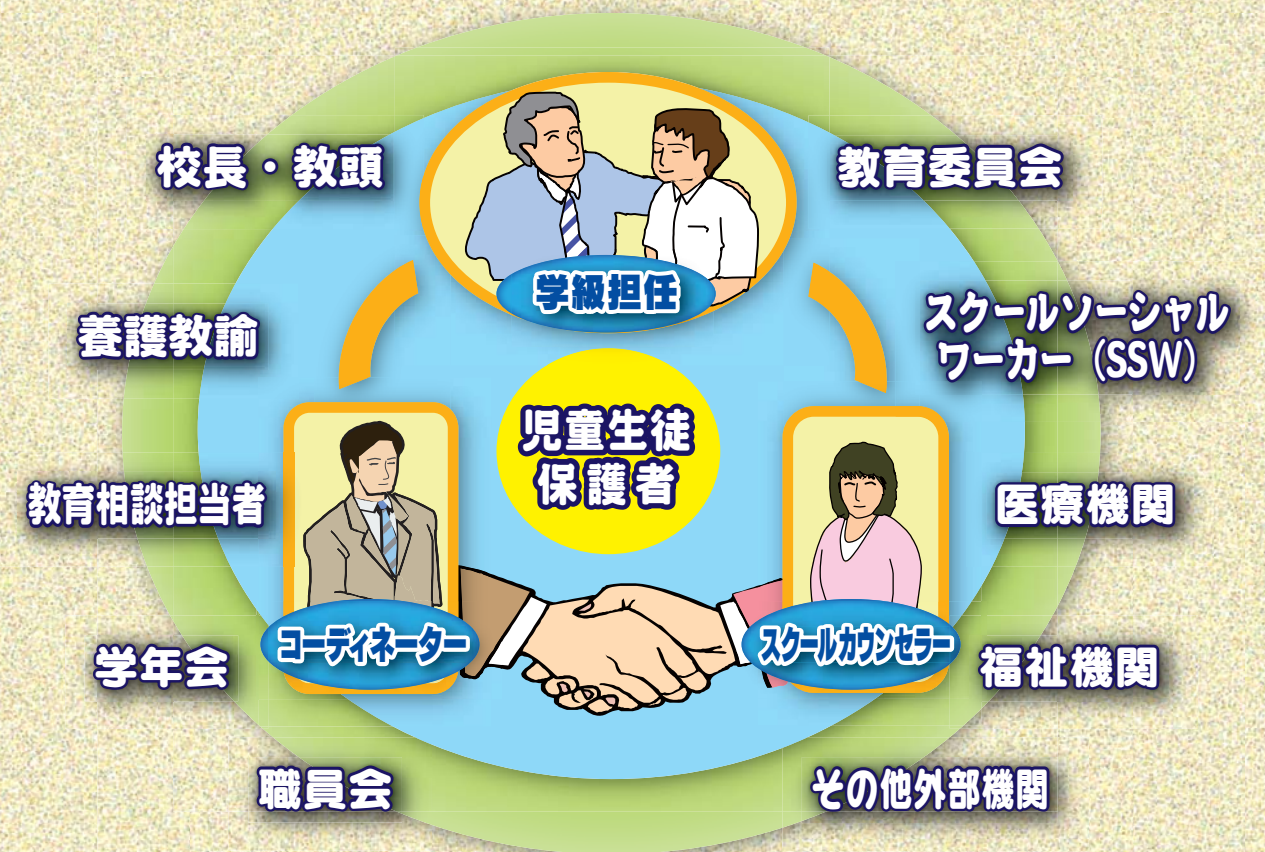
【お問い合わせ先】 **長野県教育委員会事務局 教学指導課心の支援室**  
TEL : 026-235-7436 (直通) E-mail : kokoro@pref.nagano.lg.jp

# スクールカウンセラー(SC)と共に

## ～SCのアセスメントを活かしたチーム支援ガイド～

平成7年にスクールカウンセラー(SC)が配置されて以来、SC活用事業は啓発・普及の段階から、現在はより効果的な活用が求められる段階を迎えています。

様々な悩みや不安を抱える児童生徒・保護者を支援するために、SCとの連絡調整役(コーディネーター)や担任が、SCの活用方法を焦点化したり、カウンセリング機能(アセスメント等)を積極的に活用したりして、チーム支援の充実を図りましょう。



SCのより効果的な活用のために、自校の取組を点検してみましょう。

〈チェックリスト〉

	Yes	No
1 年度当初に、SCと相談支援のあり方について充分打ち合わせを行っている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 全校集会等でSCを紹介し、教育相談について日時・方法等、児童生徒に周知している。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 家庭通知等で、SCによる教育相談について日時・方法等を保護者に周知している。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 コーディネーターにより、SCの活用について全職員に共通理解を図っている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 SCのコンサルテーション(指導・助言)が生徒指導係会・教育相談係会等に反映されている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 SCの報告が担当職員を通して全職員に共有され、チーム支援の体制ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

## 母子間コミュニケーションの仲介役として感情のコントロールを図り 中1ギャップを乗り越える

### 【親子関係の支援をどうすればよいただろう】

- A子は、小6の4月に転入。5月連休明けから欠席が目立つようになり、一学期末に登校できない状態となった。
- 特別支援教育係（コーディネーター）は、担任から「A子も母親も感情の起伏が激しく親子喧嘩が多い。A子からは母親への不満が強く感じられる。」等、本人や家庭についての情報を受けて、SCにつなげた。
- SCは母子のカウンセリングを通じて、特に母親の精神面への支援の必要性を強く感じた。

### 【母子コミュニケーションの仲介役として】

- SCは、母親とのカウンセリングにより、不登校の背景にある課題等を次のようにとらえた。

- ・ A子は、転校により学習や友だち関係に大きな不安をかかえている。
- ・ 母親も同じように、環境の変化によるストレスがある。
- ・ お互いストレスを抱え、感情的にぶつかり合ってしまう。
- ・ A子にとって母親の温かさが一番必要なときである。

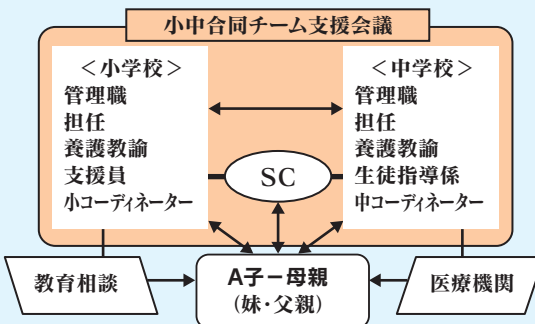
- SCは、母親の気持ちをA子に伝えながら、母子間のコミュニケーションの仲介役を継続的に行った。
- コーディネーターは、A子の中学入学後における支援の必要性を認識し、小学校の支援会議に中学校の関係職員の参加を依頼し、SCと共に小中合同のチーム支援会議を開催した。

### 【SCの情報をもとにして、A子の進学を小中連携で支えよう】

〈支援方針〉 A子が中学校生活にスムーズに移行できるように、家庭環境や学習環境を整える。  
カウンセリングの継続により母子ともに精神的な安定を図る。

〈支援策〉

- [担任・小養教・小支援員] 登校しやすい場所と時間を決め、再登校を促す。
- [SC] 母親には感情コントロールのスキルアップを行う。A子にも気持ちの整理をして言葉で伝える練習等を行う。
- [担任・小支援員] 父親に協力を依頼し母親の負担を軽減する。
- [小コーディネーター・担任・教頭] 中学入学までに専門機関の教育相談等を受けて、適切な就学指導を促す。
- [中コーディネーター・中養教] A子や母親と信頼関係を築くため、小学校参観を継続的に実施する。



### 【小中合同の支援は、A子が中一ギャップを乗り越える支えとなった】

- 中学入学後も、支援会議の方針を受けて、A子のペースに合う校内環境を段階的に準備した。
  - ・ 1学期は、教室以外に保健室等を居場所として過ごした。
  - ・ 教育相談の上、2学期からは特別支援学級で学習を開始した。
- SCは、継続してきたA子との関係を基盤に、中学担任との関係づくりを側面から支援した。
- A子は「SCや保健の先生を小学校の時から知っているから、いつでも相談できる。」「特別支援学級で詩を書いたり、先生と勉強できたりして楽しい。」と話せるようになった。
- そんなA子の姿を見て、母親は精神的な安定が見られるようになっていった。

## 興味・関心への共感から自己肯定感を育み 高校進学への意欲を高める

### 【集団生活になじめないB子への支援をどうすればよいただろう】

- B子は、中学入学時から人間関係を築くのが苦手で、大勢の人の中ではすぐに疲れてしまった。
- クラスにもなじめず、話のできる友だちが少ないことなどから、中1の6月より不登校になっていった。
- 担任による家庭訪問等の支援では、状況は改善しなかった。
- 中2時、担任も困り果てて校内の生徒指導係（コーディネーター）に相談し、SCによるB子への定期的なカウンセリングが開始された。

### 【好きな本の話から本人の自信につなげる】

- 中3時、徐々にカウンセリングの効果があらわれた。B子から「高校進学を考えているがどうすればいいかなあ」との相談があった。SCは面接からB子の様子や特徴を次のようにとらえた。

- ・ 気遣いをする子で、相手の反応を気にしすぎる傾向がある。
- ・ 話すことへの苦手意識があり、自分の世界に閉じこもる傾向がある。
- ・ 読書が好きで、感情豊かな文章表現ができる。
- ・ 友だちとの関係で、自己主張しても大丈夫なんだという経験を積み、安心感を持つことが必要だ。

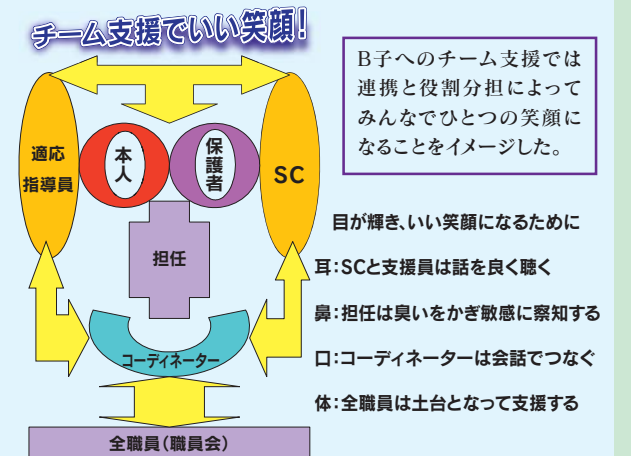
- コーディネーターは、この情報をもとに、担任・SC・中間教室適応指導員による支援チームを結成した。

### 【中間教室と連携したチーム支援でB子に自信をもたせよう】

〈支援の方針〉 少人数の環境の中で、人間関係を築く場として「中間教室」への入室を勧める。  
将来への夢がもてるように、B子の興味・関心に沿った進路学習を行う。

〈支援策〉

- [適応指導員] 中間教室に通う仲間との関係づくりを支援する。（自己決定する力の涵養・保護者との懇談・学習支援等）
- [SC] 本の話等から、B子の豊かな感性に共感し、話すことへの抵抗感を和らげる。
- [学級担任] SCと適応指導員との連携。保護者への連絡。
- [コーディネーター] 学校職員の共通理解を図る。SCとの連絡調整、状況に応じて支援会議を招集する。



### 【B子は、友だちと笑顔で語れるようになり、進路実現に向けて力強く歩み出した】

- B子は、本の話に関心を寄せてくれるSCや友だちの影響で、「将来は、本に関する仕事をしてみたい。」と思えるようになり、徐々に自分の思いを語れるようになっていった。
- ほほ毎日登校できるようになり、SCとのカウンセリングでは、「学校が楽しい。仲間との会話や活動がかみ合ってきた。」とうれしそうに話してくれた。
- B子の母は「正直、こんな日が来るとは思いませんでした。最近は、家でも明るく学校の話をしてくれます。」と話された。